信西塚〔大道寺村道の傍にあり、此所より鷲峰山に至るなり。少納言信西入道は右衛門督信頼が為に敗北し、我領地此里に来つて土中を穿ち自埋まり亡び給ふ所を、敵勢追かけ来り、忽掘出し首を斬都へ上りしなり。保元物語に曰、信西ある時鬢水に面をうつして見れば、寸の首剣のまへにかゝりて空しくなるといふ相あり。又宿願ありて熊野へ参り、切目の王子の御前にて相人に行合ふ、信西を見て相して曰、御へんは諸道の才人かな、但し寸の首剣のさきにかゝつて露命を草のうへにさらすとぞ相しける〕